

尼崎の環境—令和元年度版—(概要版)

■表記の説明

- 😊・・・改善傾向/取組が大きく進んだ
- 😐・・・横ばい/取組が進んだ
- 😞・・・悪化傾向/取組が進まなかった
- 👑・・・計画目標を達成した

目標1 低炭素社会の形成

■現状



■平成30年度の主な取組・成果

- ・二酸化炭素排出量は引き続き減少傾向にあり、平成29年度の推計値(速報値)は計画目標を達成しました。なお、平成29年度の市の取組による削減量は31,213 t-CO₂(再エネ関係: 19,679 t-CO₂、省エネ関係: 11,534 t-CO₂)でした。
- ・本市や国内外の地球温暖化対策を取り巻く状況の変化などに対応するため、緩和策に加え適応策を盛り込んだ「尼崎市地球温暖化対策推進計画」を策定しました。
- ・COOL CHOICEを普及させるため様々な周知・啓発イベントを開催するとともに具体的な取組による二酸化炭素削減量や光熱費の削減額の目安などを紹介したリーフレットを全戸配布しました。

■評価と取組の方向性

- ・新たな計画の内容を周知していくためのシンポジウムの開催や経済的インセンティブの付与によるCOOL CHOICEの推進に取り組みます。
- ・固定価格買取制度(旧余剰電力買取制度)による電力の買取期間が終了する家庭用太陽光発電設備については、自家消費を促すための支援を検討します。
- ・新たな計画に基づき本市における余剰エネルギーの活用可能性について調査に取り組みます。

目標4 多様な生き物の生息(生育)環境の保全

■現状

生物の生息・生息環境と市民の興味・関心の状況

対象	平成29年度	平成30年度	前年度との比較	
緑の面積	447.9 ha	450.4 ha	↗	
市有施設におけるブラックリスト種(兵庫県)の使用	0件	0件	→	
民有施設におけるブラックリスト種(兵庫県)の使用	0件	0件	→	
環境基準の達成状況	BOD	100%	100%	→
	DO	100%	100%	↗
	Zn	100%	100%	→
	NP	100%	100%	→
	LAS	100%	100%	→
生き物に関する講座・イベントの実施回数	46回	49回	↗	
身近な自然・生き物を大切にしている市民の割合	66.0%	64.4%	↘	
市民農園の面積	19,819 ha	21,270 ha	↗	

■平成30年度の主な取組・成果

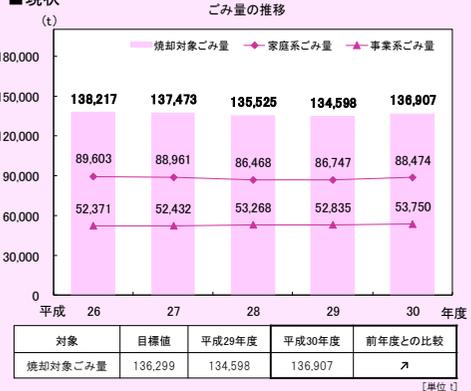
- ・身近な自然・生き物を大切にしている市民の割合が微減となりましたが、他の項目は良好な状況にあります。
- ・あまがさき環境オープンカレッジと協力で、昨年度に引き続き、兵庫県版レッドデータブックに掲載されているニホタルの観賞会や幼虫調査を行いました。
- ・都市農地を維持・保全し、意欲ある農業者を育成していくため「尼崎市認定農業者制度」に基づき認定農業者・認定新規就農者を認定しました。
- ・壁面緑化の新たな普及策として、壁面緑化に使用する種を市民間で融通しあう「種のシェア制度」の運用を始めました。

■評価と取組の方向性

- ・ヒメボタルの幼虫調査については、継続的な調査を行うことで、生息場所・条件がどのようなものか、どういった対策が生息環境の保全につながるのかといった基礎的な情報の蓄積につなげるとともに、生息場所の改善策についても検討します。
- ・小規模であっても地産地消に貢献する農業者を育成・支援することを目的に市独自の制度として「(仮称)尼崎版認定農業者制度」の創設に向けて検討します。

目標2 循環型社会の形成

■現状



■平成30年度の主な取組・成果

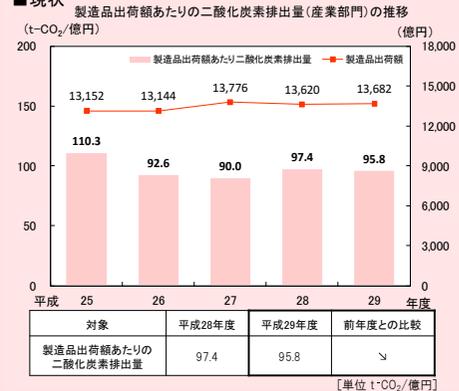
- ・焼却対象ごみ量は減少傾向にありましたが、平成30年度については台風に起因すると考えられるごみの発生により一時的な増加がみられました。
- ・小学生向けのごみに関する啓発事業である「子どもごみマスター制度」については、講座の約3割を授業参観やオープンスクールで実施することで保護者も含めた啓発としました。
- ・食品ロスを削減するためにフードドライブを実施し、家庭において食べきれそうにない食品の回収を行いました。
- ・分別が難しい雑がみの適切な分別方法を周知するため転入者に「雑がみ保管袋」を配布し、分別や資源化への意識醸成を図りました。

■評価と取組の方向性

- ・焼却対象ごみ量は、市民・事業者の様々な取組や人口の減少などにより減少傾向にあることから、現状の取組を基本としながら、更なる改善を進めていきます。
- ・令和2年度の尼崎市一般廃棄物処理基本計画の改定に向け、ワークショップやアンケート調査などの実施により市民・事業者の意見を踏まえながら、論点の整理を行います。

目標5 環境と経済の共生

■現状



■平成30年度の主な取組・成果

- ・尼崎版グリーンニューデールの成果は、二酸化炭素削減量が285.6t、経済波及効果が3億9,000万円でした。
- ・産業部門における二酸化炭素排出量が減少したことから製造品出荷額あたりの二酸化炭素排出量は減少しました。
- ・あまがさき環境オープンカレッジで、環境に取り組む市内の工場見学としてエコ社会見学ツアーを実施しました。

■評価と取組の方向性

- ・製造品出荷額あたりの二酸化炭素排出量は長期的には減少傾向にあることから、現状の取組を基本としながら、取組を進めていきます。
- ・指標の更なる低減を目指すため、本市の産業部門におけるエネルギーの流れの把握し、製造品出荷額の増加・維持と二酸化炭素排出量の削減対策を両立させるための手段について検討を行います。

目標3 安全で快適な生活環境の保全

■現状

環境基準の達成状況

対象	目標値	平成29年度	平成30年度	前年度との比較
大気	100	93.8	95.4	↗
水質(河川・海域)	100	97.9	97.9	→
水質(地下水)	100	99.0	99.5	↗
騒音(自動車)	100	98.4	98.6	↗
騒音(航空機)	100	100	100	→
騒音(新幹線)	100	91.7	95.8	↗
ダイオキシン	100	100	100	→

【単位 %】

■平成30年度の主な取組・成果

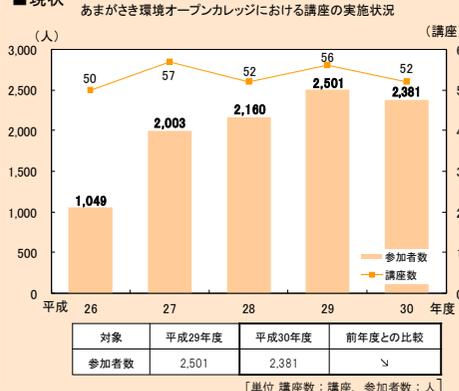
- ・過去に改善命令を出した事業者を含め、継続的に立入調査などにより監査・指導をされており、行政処分となる違反はありませんでした。
- ・公害の歴史の継承を目的として、様々な役割・立場(事業者、市民、医者、行政など)を演じることで、立場の異なる当事者間の想いを疑似体験することができる体験型学習プログラム(KOGAI QUEST)を開発しました。
- ・非飛散性アスベスト建材の撤去作業については、口頭指導に加え、紙面による指導を行うとともに飛散性アスベストについては、除去作業中の検査だけでなく、作業完了時の検査も行うなどアスベスト飛散防止策の強化を試行的に行いました。

■評価と取組の方向性

- ・環境基準については概ね達成できている状況が続いているため、現状の取組を基本としながら更なる改善を進めていきます。
- ・試行的に行っていたアスベスト飛散防止策については、一定の効果がみられたことから、本格的な運用を行います。

目標6 環境意識の向上・行動の輪の拡大

■現状



■平成30年度の主な取組・成果

- ・あまがさき環境オープンカレッジでは子どもから大人まで幅広い層を対象とした環境に関する講座やイベントが行われており、平成29年度に比べ新たに2団体と連携することができました。
- ・環境活動団体ミーティングでは、河川を活動の場とする団体同士のネットワークを活用し、12団体が集まり「あまこ川あそびサミット」を結成し、各団体がイベントを持ち寄って「尼の川で一斉川遊び」を企画・実施しました。

■評価と取組の方向性

- ・あまがさき環境オープンカレッジにおける講座・イベント数については、一定数が確保されており、引き続き、尼崎市環境基本計画の施策に沿った環境啓発・学習を進めていきます。
- ・あまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の事務局業務が令和元年度に提案型事業委託の委託期間が終了することに伴い、今後のあまがさき環境オープンカレッジの運営のあり方について検討していきます。